

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から④

獣鏡の破片が発見されたの
であろうか。

江戸時代後期の1786

(天明6)年に近隣の嶺昌寺
境内及び山林図(当館蔵)

邪馬台国の女王卑弥呼 復元した直径は23㌢で、同
(ひみこ)が魏の皇帝から もらったともいわれる青
銅製の鏡「三角縁神獸鏡(さ
んかくぶちしんじゅうき
ょう)」。写真は1969

年に、伊予市上三谷のミカ
ン畑の一角にある祠(ほ
うら)の近くで見つかった
もの。

現在、約20片の破片が残
っているが、同じ部分の文
様の破片があることから同
じ鋲型(いがた)で製作さ
れた同範(どうはん)鏡2
面分の破片と考えられる。

また、その後の聞き取り
調査によって、祠から約40
枚離れた水田でも鏡片の一
部が採集されていることが
分かった。

どうして畠の片隅に祭ら
れた祠と水田から三角縁神
獸鏡の背面の文様から正確に
は「三角縁獸文帶四神四獸
鏡(さんかくぶちしんじゅうき
よう)」と呼ばれている。

鏡の背面の文様から正確に
は「三角縁獸文帶四神四獸
鏡(さんかくぶちしんじゅうき
よう)」と呼ばれている。

伊予市に古墳 存在示す

の墓が継続して造営されて
おり、本資料も当地域が伊
予地域の首長の奥津城(お
くつき)であったことを示
す貴重なものである。

なお三角縁神獸鏡は県内
では、この上三谷で採集さ
れた2面の他にもう1面が
今治市国分(こくぶ)古墳
で発見されており、合計3
面が確認されている。また
全国的には列島各地の前期
古墳から現在、約500面
出土している。

伊予市で見つかった三角縁神獸鏡の復元図
(破片と京都府椿井大塚山古墳出土鏡を合
成) 古墳時代前期 破片は県歴史文化博物
館保管



三角縁神獸鏡

館保管

芸員・富田尚夫

△月2回掲載します△

寺周辺が描かれた「嶺昌寺
境内及び山林図」(当館蔵)
には、この場所に古墳らし
きものは描かれていない。
また明治時代の地籍図や太
平洋戦争後に撮影された空
中写真にも古墳らしきもの
は確認できない。
恐らく、かつてこの近く
にこれらの鏡を副葬した古
墳が存在していて、後世に
なって古墳を削った際、副
葬されていた鏡も破片とな
ってしまい、当時の人々が
土地の神を祭る祠に納めた
と考えられる。

この伊予市上三谷周辺で
は古墳時代終末期まで首長